

科目名 (英)	導入研修Ⅰ (Introductory Training I)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員 出田佳菜子
		授業形態	講義	総時間(単位)	15時間(1)	
学科・専攻	化粧品総合学科					前期集中
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】						
業界で活躍できるプロに必要とされる身構え、気構え、心構えを習得する授業を行う。 社会から求められているのは、化粧品に関する知識・技術だけでなく、人々のQOLを支え、社会に貢献するという役割だということを意識しながら授業に臨んで欲しい。						
【到達目標】 目的意識を高めプロに必要な身構え、気構え、心構えを身につける。また、同じ目的を持った仲間との相互支援的環境をつくる。						
【使用教科書・教材・参考書】 学生便覧、ITリテラシー、キャンパスライフガイド			【授業外における学習】			
回	授業概要		回	授業概要		
1	【授業単元】新入生オリエンテーション 【授業形態】講義 【到達目標】 各種配布物の確認と説明を受け、内容を理解する。 これから始まる学生生活に期待を持って始められるように準備をする。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】新入生オリエンテーション 【授業形態】講義 【到達目標】 2年間共に学ぶクラスの約束事を理解する。 学校にある様々な支援を知る。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】新入生オリエンテーション 【授業形態】講義 【到達目標】 東京医薬看護専門学校の学生として目的・目標を見つける			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】学生便覧の読み合わせ 【授業形態】講義 【到達目標】 学校生活を円滑に進めるための学生便覧の内容を理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】学校生活のサポートについて知る 【授業形態】講義 【到達目標】 学生便覧の内容を理解する。 進路決定に至った過程を振り返り、決意を文章化する。 JTSCを知る。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】時間割ヒラバスの見方 【授業形態】講義 【到達目標】 時間割の見方を知り、スケジュールを立てられる。 シラバスの見方を知り、学習計画を立てられる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】ITリテラシー 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 社会生活を営む上で必須とされるITリテラシーを学び、理解度テストに合格する。 基礎学力試験を通して、自分の強み弱みを知り今後の学習に活かせる対策を考える。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】健康診断の振り返り 【授業形態】演習 【到達目標】 健康診断を通じて、健康であることの大切さや、日々の健康管理に留意することを学ぶ。			【評価方法について】 基礎学力試験を実施する。評価は学則の評価基準に準ずる。		
【特記事項】						

科目名 (英)	導入研修Ⅱ (Introductory Training Ⅱ)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	出田 佳菜子			
		授業形態	講義・演習	総時間(単位)	15時間(1)	開講区分	後期 集中			
学科・専攻	化粧品総合学科									
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】										
化粧品業界で働いている方が、業界で活躍できるプロに必要とされる身構え、気構え、心構えを習得する授業を行う。 社会から求められているのは、化粧品に関する知識・技術だけでなく、人々のQOLを支え、社会に貢献するという役割だということを意識しながら授業に臨んで欲しい。										
【到達目標】										
①化粧品の現場を見学することにより、化粧品業界の理解を深めるとともに、将来やりたいことを明確にするためのきっかけにする。 ②化粧品企業の研究所、工場、店舗見学することにより、化粧品の研究～製造～流通の過程について知る。。 ③「化粧品が好き」から「化粧品を仕事にする」に自己変革する。										
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】						
回	授業概要			回	授業概要					
1	【授業単元】事前学習 【授業形態】講義 【到達目標】見学に行く企業について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
2	【授業単元】企業見学① 【授業形態】演習 【到達目標】見学を通して、仕事内容について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
3	【授業単元】企業見学② 【授業形態】演習 【到達目標】見学を通して、仕事内容について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
4	【授業単元】企業見学③ 【授業形態】演習 【到達目標】見学を通して、仕事内容について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
5	【授業単元】企業見学④ 【授業形態】講義 【到達目標】見学を通して、仕事内容について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
6	【授業単元】企業見学⑤ 【授業形態】講義 【到達目標】見学を通して、仕事内容について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
7	【授業単元】企業見学⑥ 【授業形態】演習 【到達目標】見学を通して、仕事内容について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
8	【授業単元】事後学習 【授業形態】演習 【到達目標】企業見学を通して、仕事の種類、内容について知る。 希望する職種についてわかる。			【評価方法について】 見学報告書を提出する。評価は学則の評価基準に準ずる。						
【特記事項】 ※企業見学については変更の可能性あり										

科目名 (英) 学科・専攻	プロ養成講座 (Career Development) 化粧品総合学科	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	出田 佳菜子		
		授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分	前期		
				曜日・時間	金曜日	2時限			
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】									
小・中・高の教員免許を取得し、学校教育に携わった経験のある教員が授業を担当する。 授業では、自分ことは自分で出来るように、そして自分が他社へ与える影響を考えられるような授業を開いていく。 社会人としての対応を前提として、チームで動けるようにしてほしい									
【到達目標】									
セルフコミュニケーション(自分自身とのコミュニケーション)を良好にする方法を知識として知り、頭だけでなく心や体を使って実践する。授業内で起こる意識の変化に気づき、記憶する、記録する事で、確かな自信を得ることが出来る。自分を俯観的に観察したり、他者からの意見をもらうことで、新たな自分に気づき、自分の価値観を見出せる。そのような土作りを行った後にグループワークを通してチームワークの重要性を認識し、協働意識を育む事が出来る。									
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】					
・配付資料 ・ワークシート				・授業で学んだセルフコミュニケーションワークの実践					
回	授業概要	回	授業概要						
1	【授業単元】オリエンテーション 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・クラスの雰囲気に慣れる・クラスメイトを知る・共通点や共感ポイントを探り、親近感を得る			9	【授業単元】クラスレク企画・準備 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・自分たちでクラスレクの企画・準備				
					【授業単元】クラス目標・ルールの設定 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・クラス目標を設定する・クラスで授業をうけていくに当たってルールを設定する				
2	【授業単元】コミュニケーションの性質 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・コミュニケーションの苦手意識を軽減出来る・コミュニケーションが難しい理由を体験する・理想的なコミュニケーションについて述べることが出来る			10	【授業単元】クラスレク実施(予定@葛西臨海公園?) 【授業形態】演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・自分たちで企画したクラスレクを実行・成功させる				
					【授業単元】クラスレク振り返り 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・自分が企画したもの振り返り				
3	【授業単元】個人面談・SITE JAPAN事前学習 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・SITE JAPAN事前学習・入学して1ヶ月の様子を伝える			11	【授業単元】業界研究 【授業形態】講義 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・業界研究				
					【授業単元】クラス目標・ルールの見直し 【授業形態】講義 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・クラス目標・ルールの見直し				
5	【授業単元】SITE JAPANに参加 【授業形態】演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・化粧品業界を知る			13	【授業単元】夏休みに向けて決意表明の準備 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・前期を振り返って夏休みの課題を見つける				
					【授業単元】夏休みに向けて決意表明 【授業形態】演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・夏休みに向けて決意表明・1人3分程度				
6	【授業単元】SITE JAPANに参加 【授業形態】演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・化粧品業界を知る			14	【授業単元】夏休みに向けて決意表明の準備 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・夏休みに向けて決意表明				
					【授業単元】夏休みに向けて決意表明 【授業形態】演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・夏休みに向けて決意表明				
7	【授業単元】SITE JAPANふりかえり 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・参加しての気づきの共有・今後の目標を設定			15	【評価方法について】 中間評価はSITE JAPANでの振り返りレポートで行う。 定期評価はクラスレクの企画・運営の様子や夏休みに向けての決意表明のプレゼンで評価を行う。 評価は学則規定に準ずる。				
					【評価方法について】 中間評価はSITE JAPANでの振り返りレポートで行う。 定期評価はクラスレクの企画・運営の様子や夏休みに向けての決意表明のプレゼンで評価を行う。 評価は学則規定に準ずる。				
8				【特記事項】					

科目名 (英)	コンピューター I (Computer I)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	㈱ブレーンスタッフコンサルタント
		授業形態	講義	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分	前期
学科・専攻	化粧品総合学科					曜日・時間	水曜日2時限／金曜日1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
滋慶学園グループのコンピュータ関連企業に所属しており、複数の専門学校にて学生へのPC講義や教職員へのPC研修を実施している。 <学習内容>・コンピュータネットワーク環境の適切な利用を学ぶ ・Wordで複合文書を作成する・Excelの基本操作やデータベース、効果的なグラフの作成方法を学ぶ”・メールマナーを学ぶ							
【到達目標】							
・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Wordを利用し、複合文書の作成ができる ・Excelを利用し、表計算や表、グラフの作成ができる ・マナーを理解し、メールを送信できる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				次回講義までに不明な操作をe-learning(インターネット上のテキスト)で確認しておく			
回 授業概要				回	授業概要		
1	【授業単元】 CCT入門1 【授業形態】 講義 【到達目標】 講座を受講する意義を理解し、PCの基本操作ができる			9	【授業単元】 メールマナー 【授業形態】 講義 【到達目標】 受け取り手に好印象を与えるメールのマナーを知り、メール機能を使いこなすことができる		
					【授業単元】 Excel基礎1 【授業形態】 講義 【到達目標】 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる		
2	【授業単元】 CCT入門2 【授業形態】 講義 【到達目標】 新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる			10	【授業単元】 Excel基礎1 【授業形態】 講義 【到達目標】 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる		
					【授業単元】 Excel基礎2 【授業形態】 講義 【到達目標】 関数を駆使した資料を作成できる		
3	【授業単元】 CCT入門4 【授業形態】 講義 【到達目標】 Officeの基本操作ができる			11	【授業単元】 Excel基礎2 【授業形態】 講義 【到達目標】 関数を駆使した資料を作成できる		
					【授業単元】 Excel基礎3 【授業形態】 講義 【到達目標】 グラフを駆使した資料を作成できる		
4	【授業単元】 Word基礎1 【授業形態】 講義 【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる			12	【授業単元】 Excel基礎3 【授業形態】 講義 【到達目標】 グラフを駆使した資料を作成できる		
					【授業単元】 Excel応用A(データベース) 【授業形態】 講義 【到達目標】 データベース機能を理解し活用できる		
5	【授業単元】 Word基礎2 【授業形態】 講義 【到達目標】 画像や图形を駆使した文書を作成できる			13	【授業単元】 Excel試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 データベース機能を理解し活用できる		
					【授業単元】 Word基礎3 【授業形態】 講義 【到達目標】 表を駆使した文書を作ることができる		
6	【授業単元】 Word基礎3 【授業形態】 講義 【到達目標】 表を駆使した文書を作ることができる			14	【授業単元】 Excel試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 Excel基礎で習ったことを実践できる		
					【授業単元】 Word試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 Word基礎で習ったことを実践できる		
7	【授業単元】 Word試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 Word基礎で習ったことを実践できる			15	【授業単元】 Excel試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験 Excel資料作成		
					【評価方法について】 評価は実技試験で行い、 授業内で説明した機能の理解、操作の定着度を確認する。 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	コンピューターⅡ (Computer Ⅱ)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	プレーンスタッフコンサルタント	
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 3時限	
学科・専攻	化粧品総合学科							
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】								
滋慶学園グループ所属の(株)プレーンスタッフコンサルタントのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施								
<学習内容>								
・Excel関数応用、グラフ応用 ・PowerPointを利用して、聴衆者に訴求力のある効果的なスライドを作成できる								
【到達目標】								
・Excelの応用的な機能を活用し、高度な資料作成ができる ・PowerPointを利用し、効果的なスライドの作成ができる								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、 オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				e-learningテキストで操作方法を確認し、 操作を繰り返し練習してスキルを定着させる				
回 授業概要				回 授業概要				
1 【授業単元】 Word 差込印刷 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 WordやExcelで作成したデータをWord文書の指定した位置に差し込んで印刷することができる				9 【授業単元】 PowerPoint1(基本操作) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 プレゼンテーションソフトの基本操作ができる				
2 【授業単元】 アンケート作成 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 表を使ったアンケート記入用紙が作成できる				10 【授業単元】 PowerPoint2(表現力を上げる) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 図形や画像を活用したスライドを作成できる				
3 【授業単元】 Excel応用B(関数応用1) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 応用的な関数を活用できる1				11 【授業単元】 PowerPoint3(動きを付ける) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 スライドに動きを付け、全てのスライドを完成できる				
4 【授業単元】 Excel応用C(関数応用2) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 応用的な関数を活用できる2				12 【授業単元】 PowerPoint 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 フォントや配色などを工夫して見やすいスライドに編集できる				
5 【授業単元】 Excel応用D(グラフ応用) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 目的に合ったグラフを選択し、作成することができる				13 【授業単元】 PowerPoint4(発表) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 作成したスライドを使って発表できる(1)				
6 【授業単元】 Excel応用E(ブックの活用) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 目的に合ったグラフを選択し、作成することができる				14 【授業単元】 PowerPoint試験対策 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 PowerPoint授業で習ったことを実践できる				
7 【授業単元】 WordExcel応用試験対策 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 WordExcel応用で習ったことを実践できる				15 【授業単元】 PowerPoint試験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 後期定期試験・解答解説				
8 【授業単元】 WordExcel応用試験 【授業形態】 【到達目標】 後期中間試験・解答解説				【評価方法について】 評価は実技試験で行い、 授業内で説明した機能の理解、操作の定着度を確認する。 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。				
【特記事項】								

科目名 (英)	化学 I (Chemistry I)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	板倉由美子	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 3時限	
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】								
化学を専門分野とし、企業の研究所で化合物の分析業務に従事し、その後、本校及び他専門学校、高校で長年化学系の科目を教えてきた教員が、化粧品を扱う仕事や化粧品の研究開発に必要な化学の基礎を教える。化粧品の成分として使われる無機化合物や有機化合物の性質や名称について基本的な知識を習得してほしい。								
【到達目標】								
化学物質を扱う際に必要な化学の基礎知識を習得するとともに、化粧品の研究や開発に必要なより深い知識と、その知識をもとに考える力を身に付ける。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
新編基礎化学 第2版 実教出版				教科書をよく読み、ノートを見て授業の復習をすること。				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】原子と元素、分子 【授業形態】講義 【到達目標】 原子と元素、分子、それぞれの意味を理解し、説明でき、簡単な分子の分子式が書けるようになる。	9	【授業単元】共有結合 【授業形態】講義 【到達目標】 化学結合の一種である共有結合について理解し、簡単かつ重要な分子の電子式、構造式が書けるようになる。					
2	【授業単元】元素の周期表 【授業形態】講義 【到達目標】 元素の周期表の意味を理解し、重要な元素の名称と元素記号を覚える。とくに原子番号1~20の元素については原子番号・元素名・元素記号の3点セットで覚える。	10	【授業単元】イオン結合 【授業形態】講義 【到達目標】 化学結合の一種であるイオン結合について理解し、重要なイオン結合性物質の化学式(組成式)が書けるようになる。					
3	【授業単元】原子の電子配置とイオン 【授業形態】講義 【到達目標】 原子の電子配置について理解し、説明ができるようになる。また、イオンとは何か、電子配置から説明ができ、イオンのイオン式が書けるようになる。	11	【授業単元】金属結合、配位結合 【授業形態】講義 【到達目標】 金属結合、配位結合について理解し、具体例を挙げて説明ができるようになる。					
4	【授業単元】原子の電子軌道 【授業形態】講義 【到達目標】 原子の電子配置の理解を深めるために、より詳しい電子の軌道についてエネルギーも含めて理解する。	12	【授業単元】分子間力と分子間の結合 【授業形態】講義 【到達目標】 分子間に働く力(分子間力)と分子間の結合について理解し、電気陰性度、水素結合について説明ができるようになる。					
5	【授業単元】原子量と分子量 【授業形態】講義 【到達目標】 原子量と分子量の意味を理解し、簡単な計算ができるようになる。	13	【授業単元】気体の性質 【授業形態】講義 【到達目標】 気体の性質について学び、ボイル・シャルルの法則や気体の状態方程式を理解する。					
6	【授業単元】アボガドロ数とモル 【授業形態】講義 【到達目標】 アボガドロ数の意味を理解し、 6.02×10^{23} という数値を覚える。物質量とその単位であるモル(mol)について理解する。	14	【授業単元】気体の性質 【授業形態】講義 【到達目標】 ボイル・シャルルの法則や気体の状態方程式に関する計算練習を行い、気体に関する計算ができるようになる。					
7	【授業単元】アボガドロ数とモルの計算 【授業形態】講義 【到達目標】 アボガドロ数とモルに関する簡単な計算を行うことにより、物質量に関する理解を深める。	15	【授業単元】 【授業形態】定期試験・解答解説 【到達目標】 定期試験を行うことにより、これまでの授業内容の理解と知識の定着を確認する。					
8	【授業単元】 【授業形態】中間試験・解答解説 【到達目標】 中間試験を行うことにより、これまでの授業内容の理解と知識の定着を確認する。		【評価について】 評価は筆記試験で行う。中間試験40点と定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					
【特記事項】 講義はよく聞き、板書したことはノートに書くこと。								

科目名 (英)	化学Ⅱ (Chemistry Ⅱ)	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	板倉 由美子									
							後期									
							金曜日 2時限									
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】																
化学を専門分野とし、企業の研究所で化合物の分析業務に従事し、その後、本校及び他専門学校、高校で長年化学系の科目を教えてきた教員が、化粧品を扱う仕事や化粧品の研究開発に必要な化学の基礎を教える。化粧品の成分として使われる無機化合物や有機化合物の性質や名称について基本的な知識を習得してほしい。																
【到達目標】																
化学物質を扱う際に必要な化学の基礎知識を習得するとともに、化粧品の研究や開発に必要なより深い知識と、その知識をもとに考える力を身に付ける。																
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】												
新編基礎化学 第2版 実教出版				教科書をよく読み、ノートを見て授業の復習をすること。												
回 授業概要				回 授業概要												
1	【授業単元】溶液の性質と濃度 【授業形態】講義 【到達目標】 溶液のいろいろな性質と、濃度のいろいろな表し方を理解し、質量%濃度、モル濃度、質量モル濃度の式が単位も含めて正しく書けるようになる。			9	【授業単元】酸化・還元 【授業形態】講義 【到達目標】 酸化と還元について、電子の授受という点から理解する。また、酸化数の意味と酸化数の求め方を理解し、酸化数の変化から酸化還元反応を考えることができるようになる。											
2	【授業単元】溶液の濃度に関する計算演習 【授業形態】講義 【到達目標】 質量%濃度、モル濃度、質量モル濃度の計算ができるようになる。			10	【授業単元】酸化・還元と金属のイオン化傾向・イオン化列 【授業形態】講義 【到達目標】 金属の性質とイオン化傾向、イオン化列について理解し、金属のイオン化列が書けるようになる。											
3	【授業単元】ppm, ppb, pptという単位の意味と扱い 【授業形態】講義 【到達目標】 非常に薄い濃度の液体に用いるppm, ppb, pptという濃度単位の意味を理解し、簡単な計算ができるようになる。			11	【授業単元】無機化合物(1) 【授業形態】講義 【到達目標】 無機化合物の性質を考える上で重要な周期表を、前回(化学Ⅰ)よりも詳しく見る。典型元素と遷移元素の違いについて電子配置の点から説明できるようになる。											
4	【授業単元】沸点上昇と凝固点降下 【授業形態】講義 【到達目標】 溶液の性質として、沸点上昇と凝固点降下について、具体例とともに理解し、簡単な計算ができるようになる。			12	【授業単元】無機化合物(2) 【授業形態】講義 【到達目標】 無機化合物の中で特に重要なものを取り上げ、構造と性質を関連付けて理解する。											
5	【授業単元】浸透圧 【授業形態】講義 【到達目標】 浸透圧について理解し、具体例とともに説明できるようになる。また、浸透圧に関する簡単な計算ができるようになる。			13	有機化合物(1) 【授業形態】講義 【到達目標】 有機化合物とは何か、有機化合物の歴史から始まり、有機化合物の分類について理解する。											
6	【授業単元】酸と塩基 【授業形態】講義 【到達目標】 酸と塩基の定義とそれぞれの性質について理解する。			14	【授業単元】有機化合物(2) 【授業形態】講義 【到達目標】 有機化合物の基本であるメタンの構造を理解し、説明できるようになる。アルカン、アルケン、アルキンの意味を理解し、炭素数10までの名称を覚える。											
7	【授業単元】pH 【授業形態】講義 【到達目標】 水素イオン濃度、水酸化物イオン濃度、pHについて理解し、pHに関する簡単な計算ができるようになる。			15	【授業単元】 【授業形態】定期試験・解答解説 【到達目標】 定期試験を行うことにより、これまでの授業内容の理解と知識の定着を確認する。											
8	【授業単元】 【授業形態】中間試験・解答解説 【到達目標】 中間試験を行うことにより、これまでの授業内容の理解と知識の定着を確認する。			【評価について】 評価は筆記試験で行う。中間試験40点と定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。												
【特記事項】																
講義はよく聞き、板書したことはノートに書くこと。																

科目名 (英)	有機化学 (Organic Chemistry)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	藤森 嶺	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 2時限	
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】								
有機化学を専門分野とし、企業の研究所で有機化合物の分析、合成、構造決定業務に従事し、その後、大学および大学院教授として化学系の科目を教える。研究をしてきた教員が化粧品を使う仕事や化粧品の研究開発に必要な有機化学の基礎を教える。化粧品の成分として使われる有機化合物の性質や命名法について基本的な知識を学んでいく。基本事項をしっかり記憶することが将来現場での応用に生きることをしっかり認識してほしい。考えるにはまず覚えることが前提となる。								
【到達目標】								
有機化合物の構成元素である炭素、水素、酸素、窒素の4元素について電子配置や結合のしかたを理解し、覚える。有機化合物命名法を習得し、命名できる。官能基を覚え、それぞれの分類に属する化合物の構造、特性を理解する。化粧品の成分を官能基で分類することができる。エステルの合成など身近な化合物の合成が自分でできるように電子の動きに着目した合成法の基礎的理解をする。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
これからはじめる化学 第2版 三共出版 使える有機化学 (藤森 嶺著) : 授業時に配布 (参考書)はじめて学ぶ有機化学(化学同人)				使っている化粧品の成分について官能基での分類をしてみる。化粧品の特徴がどの分の効果なのかを考えてみる。授業で学んだことについて試験問題と解答を作ってみる。				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】有機化合物を構成する元素 【授業形態】講義 【到達目標】 炭素、水素、酸素、窒素の電子配置を書き、説明できる。 有機化合物と無機化合物の違いを説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
2	【授業単元】炭化水素 【授業形態】講義 【到達目標】 メタンの構造と混成軌道を説明できる。 アルカン、アルケン、アルキンについて代表的な化合物各2種類について説明でき、構造式を書ける。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
3	【授業単元】異性体 【授業形態】講義 【到達目標】 構造異性体について説明できる。 立体異性体について説明できる。 5種類くらいの炭化水素の命名ができる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
4	【授業単元】官能基 【授業形態】講義 【到達目標】 おもな官能基8種類程度を覚え、各官能基の代表的な化合物一つの構造式を書いて、その性質を説明できる。中間試験と解説も行う。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
5	【授業単元】アルコールとエーテル 【授業形態】講義 【到達目標】 アルコール3種類、エーテル2種類の構造を書き、その性質を説明できる。アルコールの酸化反応と脱離反応を説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
6	【授業単元】カルボニル化合物、カルボン酸、エステル 【授業形態】講義 【到達目標】 カルボニル化合物、カルボン酸、エステル各2種類、の構造を書き、その性質を説明できる。カルボニル基に起る求核付加反応を説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
7	【授業単元】ベンゼンと芳香族化合物 【授業形態】講義 【到達目標】 ベンゼンの構造を書き、その性質を説明できる。 共役二重結合を書き、その性質を説明できる。芳香族化合物2種類の構造式を書き、その性質を説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
8	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 有機化合物の命名法、異性体の識別、官能基の説明が定着できている。		【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。中間試験40点と定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					
【特記事項】 記憶しやすいようにノートの取り方を工夫してみること。小テストで理解度の確認をし、不十分な部分の勉強を当日中に行う。								

科目名 (英)	化粧品原料化学 (Study of Cosmetic Material)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	伊藤 邦弘	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 3~4時限	
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 研究開発に携わってきた講師が授業を担当する。化粧品を知るにはその構成成分となる原料を知ることが基本であり、特に化粧品開発に携わるのであれば化粧品原料の種類と特徴、応用に関する知識は必須である。授業は講義が中心になりが、主要原料については可能な限り原料サンプルを提示したいと考えているので、できるだけ観て触って理解を深めてほしい。								
【到達目標】 日常使用している化粧品を構成している原料(成分)について、その特性などを理解しさらに製品の基本的な役割や機能との関係が理解できている。								
【使用教科書・教材・参考書】 ◎「新化粧品学」第2版 光井武夫編 南山堂 ◎「化粧品成分ガイド」第6版 宇山浩男 岡部美代治 久光一誠編著 フレグラントジャーナル社 ◎その他プリント				【授業外における学習】 化粧品に用いられる原料について教科書やプリントの予習復習を通じ役割や性質等の理解を深めていくこと				
回	授業概要	回	授業概要					
1・2	【授業単元】化粧品および化粧品原料概論 【授業形態】講義・演習 【到達目標】化粧品の意義、開発の流れ、化粧品原料の基本の理解 ・化粧の目的、化粧品の意義や品質特性とその保証についての理解 ・化粧品市場の動向、化粧品開発の流れの理解 ・化粧品原料としての要件と品質規格についての知識の習得		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
3・4	【授業単元】化粧品と色彩、化粧品用色材および粉体の種類と特徴 【授業形態】講義・演習 【到達目標】色彩の基礎及び化粧品用色材、粉体の特性の理解 ・化粧品と色彩の関わり、基礎的な色彩学についての理解 ・化粧品に用いられる各種粉体の機能、用途についての理解 ・マイクアップ化粧品の主要色材(色素や顔料)の分類と特徴の理解		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
5・6	【授業単元】各種油性原料の種類と特徴 【授業形態】講義・演習 【到達目標】化粧品に使用される油性原料の種類、用途、特徴の理解 ・油脂・ロウ類の種類と特徴および用途についての理解 ・炭化水素・高級脂肪酸・高級アルコール類の特徴、用途等の理解 ・エステル類・シリコーン油その他最近の合成油の種類、用途の理解		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
7・8	【授業単元】化粧品の安定性と品質保証 【授業形態】講義・演習 【到達目標】化粧品の安定性、品質保証とその考え方の理解 ・化粧品の品質保証についての考え方、製品の安定性や試験法について理解する ・中間試験の実施、解答と補足説明、前半授業の理解を深める		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
9・10	【授業単元】化粧品と界面活性剤、保湿成分、高分子基剤 【授業形態】講義・演習 【到達目標】界面活性剤、保湿剤や高分子材料などの役割の理解 ・界面活性剤の種類や基本的性質、作用についての理解 ・界面活性剤の用途および化粧品への応用についての理解 ・保湿剤や高分子材料など付加的機能を生む原料の働きを理解		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
11・12	【授業単元】医薬部外品、化粧品に配合される薬剤。香料について 【授業形態】講義・演習 【到達目標】各種薬剤の作用と化粧品への応用に関する知識習得 ・添加薬剤の種類と機能、特徴の理解 ・製品への応用例と効果についての知識の習得 ・香料の役割		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
13・14	【授業単元】化粧品の物理化学的特性 【授業形態】講義・演習 【到達目標】化粧品の物理化学的特性とその基礎的理論の理解 ・化粧品の物理化学的特性と製品機能、使用性等への関わりを知る ・コロイド化学、界面化学、レオロジーの基礎的な理論の理解		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
15	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・定期試験および解答と補足説明。前期授業の内容の理解を深め次期に繋げる		【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験(持ち込み無し) 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験(持ち込み無し)					
【特記事項】								

科目名 (英)	機能性原料化学 (Functional Material Chemistry)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	田辺 篤子	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日	
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】								
化粧品メーカーで15年間開発研究に従事し、その後22年間商品企画開発に従事。その後、中国を中心に海外事業を従事し、現在も海外事業に携わっている。製品開発研究から商品企画、薬事の専門知識など幅広い知識をもとに機能性原料の専門知識を理解できるような授業を行なう。化粧品の様々な訴求を担うのが、機能性原料である。機能性原料の作用のメカニズムを理解するとともに、化粧品の効能について理解することにより、化粧品業界で活かせる知識の習得をめざす。技術は日々進歩しており、最近の技術動向およびトレンドも含め講義する。								
【到達目標】								
乾燥、肌あれ、しみ、老化、体臭等の肌状態のメカニズムを理解する。 機能性原料が、それぞれにどの様に働きかけるかを学ぶことにより、どのようにすれば魅力的な化粧品となるかを考えられるようにする。 あわせて、化粧品の訴求などについての制限なども理解し、化粧品業界に關わる様々な職務に通用する基礎知識を習得する。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
プリント教材による				各授業で取り上げた機能性原料について、自分が使っている化粧品にどの機能性原料が含まれているか、どのような効果があるかを調べて、より身近に感じられるようにすることが望ましい。				
回	授業概要			回	授業概要			
	【授業単元】 機能性原料とは何か/最近のトレンド				【授業単元】			
	【授業形態】 講義				【授業形態】			
	【到達目標】				【到達目標】			
	化粧品とは何か、機能性原料とは化粧品にどのような効能効果をもたらすかを理解する。」 最近のトレンドを学ぶことにより、現在化粧品に求められていることを理解する。				【授業単元】			
	【授業単元】 保湿化粧品				【授業形態】			
	【授業形態】 講義				【到達目標】			
	【到達目標】				【授業単元】			
2	肌にとって、保湿の大切さを理解し、保湿成分および表記可能な表現を学ぶ。 唯一の肌あれ改善剤についての理解をする。				【授業形態】			
	【到達目標】				【到達目標】			
3	【授業単元】 美白化粧品				【授業単元】			
	【授業形態】 講義				【授業形態】			
4	【到達目標】				【到達目標】			
	美白化粧品の認められている効能効果を正しく理解する。 シミの生成機序を学び、美白成分の種類およびメカニズムを学ぶ。 最近の美白表現への規制の流れを理解する。				【授業単元】			
5	【授業単元】 日やけ止め化粧品				【授業形態】			
	【授業形態】 講義				【到達目標】			
6	【到達目標】				【授業単元】			
	紫外線による肌へのダメージを理解したうえで、日やけ止め化粧品の効果について学ぶ。 昨今の日やけ止め化粧品の規制について学び、今後の日やけ止め化粧品の開発への一助とする。				【授業形態】			
7	【授業単元】 エイジング化粧品				【到達目標】			
	【授業形態】 講義				【授業単元】			
8	【到達目標】				【授業形態】			
	エイジングケア表記に対する規制を理解し、エイジングケア成分を学ぶ。 化粧品新効能である「乾燥によるじわを自立たなくする」についての制約などを学ぶ。 「しわ改善」訴求が可能になった背景、現状を学ぶ。				【到達目標】			
9	【授業単元】 ニキビケア化粧品/ハンドケア化粧品				【授業単元】			
	【授業形態】 講義				【授業形態】			
10	【到達目標】				【到達目標】			
	ニキビ発生のメカニズム、ニキビに対する正しいケアを理解し、成分の効能効果を学ぶ。 ハンドケア化粧品の推移、および化粧品での分類を学ぶ。				【評価方法について】			
11	【授業単元】 デオドラント化粧品/頭髪化粧品				評価は、筆記試験で行い、授業で学習した専門知識を確認する。			
	【授業形態】 講義				原則、各授業毎に小試験を実施する。小試験の合計点は40点満点で換算する。			
12	【到達目標】				定期試験は60点満点とする。小試験、定期試験の合計100点満点で評価する。			
	各機能性原料について、訴求可能な表現、制限の理解度を確認する。 機能性原料の種類、効果の理解を確認する。				【特記事項】			

科目名 (英)	香粧品化学 (Chemistry of Cosmetics)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	伊藤 邦弘	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期	
学科・専攻	化粧品総合学科					曜日・時間	木曜日 1~2時限	
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】								
研究・開発に携わってきた講師が授業を担当する。本講座では化粧品の開発に必要な原料成分とその配合技術を化粧品の品種毎に学んでいきます。それぞれの製品がどのような成分で構成され、どのような技術が使われているのかをしっかりと理解することが重要である。化粧品開発の基礎となるところですので、技術とその基本原理も含めて学習するよう努めてほしい。								
【到達目標】								
化粧品の製品類別毎に機能、原料の使用法、構成成分と製造方法等、化粧品開発の基礎を理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
◎「新化粧品学」第2版 光井武夫編 南山堂 ◎「化粧品成分ガイド」第6版 宇山徳男 岡部美代治 久光一誠編著 フレグラスジャーナル社 ◎その他プリント				予習復習に加え、市販の化粧品を手にする機会があれば、どのような成分から構成されているか見ておくようにしましょう				
回 授業概要				回 授業概要				
1・2	【授業単元】 スキンケア化粧品 I(洗顔料・化粧水・乳液) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 スキンケア化粧品の目的、機能、構成成分等の理解 ・洗顔料、化粧水、乳液の種類や目的、機能、役割の理解 ・構成成分との役割についての知識の習得 ・製造方法、製品の評価方法の理解			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・定期試験の実施、解答と補足説明を実施、前半授業の理解を深める			
					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3・4	【授業単元】 スキンケア化粧品 II(クリーム・美溶液・パック等) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 スキンケア化粧品の目的、機能、構成成分等の理解 ・クリーム、美溶液、パック等の種類や目的、機能、役割の理解 ・構成成分との役割についての知識の習得 ・製造方法、製品の評価方法の理解				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5・6	【授業単元】 ヘアケア化粧品 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ヘアケア製品の目的、機能、構成成分等の理解 ・シャンプー、リンスの種類や目的、機能、役割の理解 ・構成成分との役割についての知識の習得 ・パーマネント剤および染毛剤の原理を理解 ・パーマネント剤、染毛剤の構成成分、処方および機能、役割の理解				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7・9	【授業単元】 メイクアップ化粧品 I ベースメイクアップ化粧品(1) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ベースメイクアップ製品の目的、機能、構成成分の理解 ・白粉、ファンデーションの種類、構成成分、製造方法、評価等の理解 ・粉体の表面処とファンデーションへの応用についての理解 ・パウダー、乳化、油性、各タイプのファンデーションの差異と特徴				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 ベースメイクアップ化粧品(1)および中間試験、解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 前半の授業内容の理解を深める ・中間試験実施、解答と補足説明の実施、前半授業の理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
10・11	【授業単元】 メイクアップ化粧品 II ポイントメイクアップ化粧品 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ポイントメイクアップ製品の目的、機能、構成成分の理解 ・口紅、頬紅、アイシャドウの構成成分、製造方法、評価等を理解 ・マスカラ、アイライナーの処方設計、製造工程上の留意点の理解 ・マニキュア類に使用される原料とその特殊性を理解				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
12・13	【授業単元】 ボディケア、ハンドケア、フレグランス化粧品 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ボディケア、フレグランス製品の機能、構成成分の理解 ・石けん、UVケア、防臭化粧品、脱色・除毛剤の機能と原理の理解 ・使用原料、薬剤、処方の特色の理解 ・香水・オーデコロンの種類、処方、製造方法等理を理解				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
14	【授業単元】 化粧品の容器 化粧品とエアゾール技術 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 エアゾール製品の基本と化粧品容器についての理解 ・エアゾール製品の原理と構造についての理解 ・エアゾール製品の噴射剤、原液、容器構造を理解 ・化粧品容器と中味の保護、容器の形態や材質についての理解				【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験(持ち込み無し) 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験(持ち込み無し)			
					【特記事項】			

科目名 (英)	調香化学 (Chemistry of Perfume)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	安田 高司	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	後期 月曜日 1・2(3・4)時限	
【授業の学習内容と構成】								
ブラジル、メキシコで9年間の香料創香業務、日本において創香業務を行ってきた教員が調香の基礎を教える。 化粧品原料としての香料を理解する。								
【到達目標】								
原料香料を使用し調香にトライする。 自分の香りを調香する。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
使用教材:配布プリント								
回　　授業概要				回　　授業概要				
1・2	【授業単元】香料概論 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 香料とは何か			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3・4	【授業単元】合成香料 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 天然香料を知る。香りをかぎながら。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
5・6	【授業単元】合成香料 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 常に香料をかぎながら香料原料を覚えていく。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
7・8	【授業単元】中間試験・解答解説 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自身の感性を生かす。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
9・10	【授業単元】天然Fruitを調香してみる 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自身の感性を生かす。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
11・12	【授業単元】モチーフとは… 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 創香前にモチーフを作成 マイフレグランス創香			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
13・14	【授業単元】モチーフとは… 【授業形態】講義・演習 【到達目標】創香前にモチーフを作成 創香前にモチーフを作成 マイフレグランス創香			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
15	【授業単元】定期試験・解答解説 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 作品提出及び記憶感性実施テスト。			【評価について】 実技(中間試験40点、定期試験60点)				
	【特記事項】							

科目名 (英)	国際教育講座(海外研修) (Overseas Study)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	出田佳菜子		
		授業形態	演習	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分 曜日・時間	後期 集中		
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】									
フランスにおいて、化粧品、香料専門の学校及び化粧品企業でヨーロッパにおける化粧品について講義、実習を通して日本との違いについて知る。									
【到達目標】									
日本とは異なる文化を知ると共に、文化・気候等による化粧品製造・開発の違いに直接触れることで、今後の卒業研究・就職活動・就職後の商品開発等に役立てる。									
化粧品をメインとした企業訪問を実施、開発・製造から販売までの流れを追うことで、商品開発の考え方を学ぶ。									
香水・化粧品学校(ISIPCA)にて、化粧品、香水の歴史から原料について講義、実習を通して処方・製造について知るとともに、見聞を広める。									
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】					
回	授業概要	回	授業概要						
1.2	【授業単元】事前学習 【授業形態】講義 【到達目標】 海外研修の目的、研修先について事前に調べておく。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
3.4	【授業単元】海外研修① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 香水・化粧品学校にて化粧品、香料・香水の研修			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
5.6	【授業単元】海外研修② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 学校にて化粧品、香料・香水の研修			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
7.8	【授業単元】海外見学③ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 企業見学を通して、フランスの化粧品事情について知る。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
9.10	【授業単元】海外研修④ 【授業形態】演習 【到達目標】 店舗見学を通して、フランスの化粧品事情について知る。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
11.12	【授業単元】海外研修⑤ 【授業形態】演習 【到達目標】 自由研修を通して、フランスの化粧品事情について知る。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
13.14	【授業単元】海外研修⑥ 【授業形態】演習 【到達目標】 自由研修を通して、フランスの化粧品事情について知る。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
15	【授業単元】事後学習 【授業形態】演習 【到達目標】 研修を通して、感じた事、知った事、身に付いた事についてまとめる。			【評価方法について】 研修報告書を提出する。評価は学則の評価基準に準ずる。					
【特記事項】				世界情勢により、国内研修に変更の可能性あり					

科目名 (英)	化粧品基礎実習	必修選択	必修	年次	1	担当教員	高林久美子・石田耕一・植松久美子・梅本典子
	(Cosmetics Development Training)						前期(前半)

学科・コース
化粧品総合学科

【授業の学習内容と心構え】

化粧品業界において研究開発経験を有し、大学・専門学校において化学・化粧品分野の教員経験が10年以上ある教員が、化粧品を学ぶための基本となる知識、技術を習得するための授業を行う。

特に、技術の習得は実際に自分の手を動かして初めて可能となるので、遅刻・欠席をせず、積極的に実習に参加して欲しい。

【到達目標】

化粧品分野における基本的な知識を身に付ける。

実習における基本的操作を習得する。

化粧品における処方の成り立ちや各成分の働き、配合目的、分析方法などを理解する。

【使用教科書・教材・参考書】

配布実習書、新化粧品学(南山堂)

【授業外における学習】

毎回の実習のレポートを作成し、次週提出する。

授業概要	回	授業概要
<p>【授業単元】市販化粧水の評価 【授業形態】講義・実習 【実習内容】 実習室の決まりごと 化粧品の定義 市販化粧水の評価</p> <p>1～4</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習室の決まりを順守する ・化粧品の定義を説明できる ・評価シートに従って市販化粧水の官能評価ができる ・pHメーターを使ってpHの測定できる ・実習の記録がとれる 	17～20	<p>入浴剤中の色素の定量と入浴剤の作製 【授業形態】実習 【実習内容】 ・入浴剤中の色素の定量 ・定量した色素濃度をもとに入浴剤の作製 ・発泡入浴剤の作製</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最小二乗法を用いて検量線の直線回帰ができる ・吸光度分析の一連の操作ができる ・ppm濃度換算ができる ・回帰式から濃度が計算できる ・入浴剤を作製できる
<p>【授業単元】化粧水の作製 【授業形態】実習 【実習内容】 ・保湿剤の評価 ・緩衝作用・可溶化の確認 ・オリジナル化粧水の作製</p> <p>5～8</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習書記載の保湿剤の感触を区別することができる ・化粧品処方や工程図が書ける ・緩衝液を作ることができる ・香料を可溶化できる ・オリジナル化粧水を作ることができる 	21～24	<p>【授業単元】セッケンの合成 【授業形態】実習 【実習内容】 ・油脂とは ・石ケンの合成の原理 ・ケン化率100%および80%の石ケンの合成</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動植物油脂の構造を説明できる ・セッケンの合成の原理を記述できる ・ケン化値の定義を説明できる ・ケン化値とケン化率からアルカリの量を計算できる ・セッケンの合成ができる
<p>【授業単元】乳化実験 【授業形態】実習 【実習内容】 ・乳化基礎実験 ・W/Oクリームの作製 ・O/Wクリームの作製</p> <p>9～12</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳化の概念が説明できる ・HLBの計算ができる ・加熱・冷却の操作ができる ・乳化の基本的な作業ができる ・W/O乳化物とO/W乳化物を判別できる 	25～28	<p>【授業単元】水溶性高分子(カルボマー)のpHと粘度測定 【授業形態】実習 【実習内容】 ・カルボマー水溶液のpHと粘度測定 ・ジェル製品の製造 ・水蒸気蒸留法におけるラベンダー精油の抽出</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化粧品においてレオロジーの重要性を説明できる ・粘度計で粘度を測定できる ・カルボマーの性質を説明できる ・単純なジェル製品を製造できる ・水蒸気蒸留法でラベンダー精油の抽出ができる
<p>【授業単元】色素濃度の定量 【授業形態】実習 【実習内容】 色素液の希釀 ・吸収波長の測定 ・検量線から色素濃度の定量</p> <p>13～16</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化粧品分析の必要性を説明できる ・分光光度計の扱いを習得する ・溶液の希釀ができる ・検量線が書ける ・検量線から色素濃度の定量ができる 	29～30	<p>【授業単元】定期試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解不足の点を確認し、再度定着し、到達目標を達成できる <p>【評価について】</p> <p>中間試験(40点満点):筆記試験の代わりに毎回の実習レポートで評価する</p> <p>定期試験(60点満点)</p> <p>実施方法:筆記試験 実習で習得した専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する</p> <p>合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる</p>

科目名 (英)	化粧品基礎技術実習(生物) (Cosmetic Basic Practice (Biology))	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	小林 崇典・河邊友範			
	化粧品総合学科	授業形態	実習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1~4時限			
【授業の学習内容と心構え】										
大学及び研究機関において、植物の品種改良に関する研究に携わり、主に細胞工学・遺伝子工学を用いた研究を行い、同時に専門学校や大学で実験系科目的教育に携わってきた教員が授業を担当する。生物学の応用として発展するバイオテクノロジーは、医療あるいは医薬品開発の世界で活用される技術であり、①生物(の構造)を知る、②生物の持つ力を知る、③生物の持つ力を応用する、ことにより成り立つ技術である。今回は身近な生物を用い、植物・動物・菌の基本構造やその機能を実際に観察することで、様々な生物の違いと秘めた力について知見を広めて欲しい。										
【到達目標】										
生物材料の取扱いに慣れ、生物顕微鏡の正しい操作を身につける事を最小限の目標とする。 さらに、生物学的なスケッチが観察力を養うという意義を知っており、正確な記録を残す事ができる。 その上で、与えられた課題を解くだけでなく、自ら疑問点を見つけ出し、解決する方法を模索する姿勢が身についている。										
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】						
プリント				失敗も含めて、なぜそうなったのか考え、どうすべきか改善する習慣をつける						
回 授業概要				回 授業概要						
1-4	【授業単元】生物の構造を知る 【授業形態】実習 【到達目標】 ・人間の基本的構造を知る ・皮膚や髪の毛の構造を知る ・人間の感覚器の働きを知る ・顕微鏡が扱えるようになる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【授業単元】生物の力を知る 【授業形態】実習 【到達目標】 ・簡単な色素抽出のやり方を知る ・簡単な香料抽出のやり方を知る ・オールドバイオテクノロジーを知る ・バーナーを扱った実験ができるようになる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【授業単元】生物の力を応用する 【授業形態】実習 【到達目標】 ・葉効成分を利用した商品を作つてみる ・発酵の仕組みを知る ・発酵をしてみる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【授業単元】生物の力を使う・定期試験・解答解説 【授業形態】実習 【到達目標】 ・酵素を知る ・酵素の力を利用した製品を作つてみる ・ニューバイオテクノロジーを知る			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
5-8	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
9-12	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
13-15	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
【特記事項】				【評価について】 評価は、実験後に提出するレポート(40点)と、定期試験(60点)の合計100点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。						
観察中の発見や疑問点は詳細に実習ノートに記載する。それを元に分かりやすい報告書を書くように、常に意識する事。										

科目名 (英)	化粧品基礎技術実習(化学)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	大野 光宣・河邊友範
	(Cosmetic Basics Practice (Chemistry))						

学科・コース 化粧品総合学科

【授業の学習内容と心構え】

高等学校、専門学校において、理系科目、実習の教員経験がある教員が、基礎からしっかり実習技術を指導する。
すべての実習の基本になるので、しっかり身に付けてほしい。

【到達目標】

実験マナーを身に付け、安全に実験が出来るようになる。
器具・機器の名称と用途を覚え、正確に扱えるようになる。
実験の方法、流れを理解し、スムーズに実験を行え、結果が出せるようになる。
実験レポートが書けるようになる。

【使用教科書・教材・参考書】

バイオ実験技術テキスト 基本操作編(改訂版)
視覚でとらえるフォトサイエンス 化学図録 三訂版

【授業外における学習】

回	授業概要	回	授業概要
1.2	<p>【授業単元】 実験のための基本的な注意、安全、機器等の取り扱い</p> <p>【授業形態】 実習</p> <p>【到達目標】</p> <p>実験をする上で必要なマナー、応急処置、廃棄物処理ができる。 実験で使用するガラス器具、器具の取り扱いができる。 実験で使用する水と試薬についての取り扱いができる。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>
3.4	<p>【授業単元】 溶液調製と濃度①(パーセント濃度)</p> <p>【授業形態】 実習</p> <p>【到達目標】 パーセント濃度の溶液を調製できる パーセント濃度の計算ができる。 試薬や溶媒を正確に量り取ることができる。 規定の濃度の塩化ナトリウム溶液を作ることが出来る。 塩化ナトリウム溶液を希釈し、規定の濃度に出来る。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>
5.6	<p>【授業単元】 溶液調製と濃度②(モル濃度)</p> <p>【授業形態】 実習</p> <p>【到達目標】 モル濃度の溶液を調製できる モル濃度の計算ができる。 試薬や溶媒を正確に量り取ることができる。 規定の濃度の塩化ナトリウム溶液を作ることが出来る。 規定の濃度のブドウ糖溶液を作ることが出来る。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>
7.8	<p>【授業単元】 酸・塩基の試薬調製と標定①</p> <p>【授業形態】 実習</p> <p>【到達目標】 pHがわかる。指示薬の種類がわかる。 水酸化ナトリウム溶液が調製できる。 塩酸希釈溶液が調製できる。 指示薬とpH変色域と色がわかる。 pHを測定することが出来る。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>
9.10	<p>【授業単元】 酸・塩基の試薬調製と標定②</p> <p>【授業形態】 実習</p> <p>【到達目標】 指示薬を使うことが出来る。pHを測定できる。 塩酸と水酸化ナトリウム溶液を使用し、指示薬とpH変色域の色の変化を理解する。(フェノールフタレン、メチルオレンジ等) pHメーターの使い方が解る。(セットアップ、校正、片付け)</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>
11.12	<p>【授業単元】 酸・塩基の試薬調製と標定③</p> <p>【授業形態】 実習</p> <p>【到達目標】 中和滴定。 pH曲線を作成すると共に、ビュレットの使い方を習得する。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>
13.14	<p>【授業単元】 酸・塩基の試薬調製と標定④</p> <p>【授業形態】 実習</p> <p>【到達目標】 食品中の有機酸の定量 食酢の酸度 ヨーグルトの酸度 レモンの酸度</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>
15	<p>【授業単元】 定期試験・解答解説</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>実習で学んだ器具機器の名称、使用用途、試薬、実験方法についてわかる。</p>		<p>【評価について】</p> <p>定期試験の実施。 60点 実験ごとの小テスト、レポート等の実施。 40点</p>
【特記事項】			
1時間目に実習内容の説明・確認を行ないます。 遅刻すると分からなくなりますので、時間は守ってください。			

科目名 (英)	化粧品基礎技術実習(微生物) (Cosmetic Basics Practice (Microbiology))	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	大野平祐・河邊友範
学科・専攻	化粧品総合学科	授業形態	実習	総時間(単位)	30時間(1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1~4限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
学生時代は魚病学、養殖魚類の真菌症の防除について研究を行っていた。扱う対象が魚類、食品、人間そして化粧品へと変わっても20年以上、微生物と関わっている。講義は、どちらかと言えば受動的ですが、実験は能動的である。この実験を通して失敗をしても、自分が納得するまで何回でも試行錯誤しながら、結果にたどり着く姿勢を身につけて欲しい。							
【到達目標】							
肉眼では不可視である微生物の正体を可視化することで、講義等で習得した微生物に対する印象を具体化すること。併せて身近な微生物の存在と、それらを抑制する方法について理解することを目標とする。							
【使用教科書・教材・参考書】 実習書、配布資料				【授業外における学習】 レポートは考察が採点の要である。考察を書くために必要な文献、正確な情報等を収集するようにしてほしい。			
回	授業概要	回	授業概要				
1. 2	【授業単元】 真菌観察の準備 【授業形態】 実習 【到達目標】 真菌用培地の作製および真菌の分離、培養を行う。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3. 4	【授業単元】 真菌の観察 【授業形態】 実習 【到達目標】 分離した真菌の菌糸および胞子の観察を行う。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5. 6	【授業単元】 グラム染色の練習 【授業形態】 実習 【到達目標】 納豆菌のグラム染色および観察を行う。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7. 8	【授業単元】 人体由来の微生物観察の準備 【授業形態】 実習 【到達目標】 人体由来の微生物の検出を目的とした培地の作製および微生物の分離、培養を行う。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
9. 10	【授業単元】 人体由来の微生物の観察 【授業形態】 実習 【到達目標】 分離した人体由来の微生物のグラム染色および観察を行う。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
11. 12	【授業単元】 環境由来の微生物観察の準備 【授業形態】 実習 【到達目標】 環境由来の微生物の検出を目的とした培地の作製および微生物の分離、培養を行う。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
13. 14	【授業単元】 環境由来の微生物の観察および抗菌試験の準備 【授業形態】 実習 【到達目標】 分離した環境由来の微生物のグラム染色および観察、身近な物質を用いた抗菌試験の準備を行う。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
15	【授業単元】 抗菌試験の結果判定 【授業形態】 実習 【到達目標】 阻止円の計測結果を基に、供試した物質成分の抗菌効果を検証する。			【評価方法について】 実習に取り組む姿勢(授業点)40点、レポート点60点で評価を行う。 レポートの提出期限を厳守とし、未提出は0点、期限を過ぎて提出した場合は減点とする。			
【特記事項】 実験の準備等によって順番および内容を変更する場合がある。							

科目名 (英)	スキンケア製品開発実習 (SkinCareProductDevelopmentPractical)	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	渡辺博、永井昌義 植松久美子、梅本典子
		授業形態	実習	総時間(単位)	120時間(4)	開講区分	前期・後期 曜日・時間 火曜日 1~4時間
学科・専攻	化粧品総合学科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・構成】 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するか、具体的に記載する)							
化粧品総合技術者として長年に渡り、化粧品処方開発及び化粧品素材開発に取り組み、化粧品業界の技術向上に貢献してきた教員が、化粧品総合技術者のスペシャリストを目指すために、スキンケア開発実習の目的、重要性の確認と、専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行なう。							
目標とする職種のやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことはなにかを考えながら受講してほしい。 実習がメインとなる授業、グループ活動で行うため、遅刻欠席は出来るだけせず、復習をしっかりと授業に臨んでほしい。							
【到達目標】 スキンケア化粧品の処方開発に必要な知識、技能を理解し必要な専門的な知識、技能および態度を習得する。 化粧品開発の一員としての化粧品開発技術者の役割を知ることができる。 人々のニーズに合った化粧品のため、化粧品開発技術のアセスメント・商品企画、処方設計開発、品質評価ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 使用教科書:新化粧品学 使用教材:配布プリント		【授業外における学習】 専門用語が頻繁に出てくるので、予め教科書を読み、予習してること。 また、配布プリントの復習をし、より確実に見につけることが望ましい。					
回 授業概要				回	授業概要		
1~4	【授業単元】 スキンケア化粧品の目的の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 実習の仕方、レポート作成の理解。 スキンケア化粧品の目的の理解。 解順序、攪拌の理解。乳化、冷却時の攪拌の理解。			33~36	【授業単元】 W/O、O/W乳化法の処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 アミノ酸ゲル乳化法によるW/O型乳化処方の製法の理解 2段階乳化法によるO/W/O型乳化処方の製法の理解 電気伝導度による乳化型の判定法を習得する。		
5~8	【授業単元】 クレンジングフォームの処方、製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 高級脂肪酸系クレンジングフォームの処方、製法の理解。 アミノ酸系クレンジングフォームの処方、製法の理解。 粘度計の使用方法及び洗浄作用を理解し、習得する。 経時変化測定の目的と方法の理解。			37~40	【授業単元】 透明石鹼の処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 石鹼の処方、製法の理解 透明化技術、屈折率の理解		
9~12	【授業単元】 モイスチャーバランスと可溶化化粧水の製法の理解。 【授業形態】 実習 【到達目標】 柔軟化粧水の処方、製法の理解。 モイスチャーバランスの理解。 水分測定計の使用方法及びモイスチャーアクション作用を理解し、習得する。			41~44	【授業単元】 クレンジングクリームの処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 クレンジングクリーム処方と製法の理解 有機概念図の概念と応用の理解 クレンジング評価法の理解と習得		
13~16	【授業単元】 諸タイプの化粧水処方、製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 柔軟化粧水、収斂化粧水、洗浄化粧水、2層式化粧水の処方、製法の理解。 各製剤の作用、官能評価の理解。			45~48	【授業単元】 サンスクリーン剤の処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 SPFとPAの概念の理解 サンスクリーン剤の処方と製法の理解		
17~20	【授業単元】 界面活性剤、HLB、乳化についての理解。 【授業形態】 実習 【到達目標】 界面活性剤、HLB、乳化について理解する。 顕微鏡観察の操作を理解し、習得する。			49~52	【授業単元】 美容液、ジェルの処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 美容液、ジェルの処方と製法の理解 全成分表示と処方開発の関係理解		
21~24	【授業単元】 乳液の処方、製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 石鹼一ノニオン系乳液、粘液質系乳液、W/O乳化系乳液の処方、製法の理解。 乳液の目的を理解する。			53~56	【授業単元】 ミルクバス、パックの処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 ミルクバスの処方と製法の理解。 サーモグラフィー測定法の理解と習得 パックの処方と製法の理解		
25~28	【授業単元】 バニシングクリームの処方、製法の理解。 【授業形態】 実習 【到達目標】 バニシングタイプクリームの処方、製法の理解。 バニシング作用と使用感覚の理解。 前期的重要性の確認。			57~60	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 製法(工程図)及び乳化方法の理解度 製剤の評価方法の理解度 スキンケアの基本の理解度		
29~32	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 スキンケア及び保湿の目的、定義の理解度 界面活性剤の基本的な特性理解度 洗顔、化粧水の原料の理解度				【評価方法について】 前期 中間評価 前期小テスト:40%、中間試験:60% 後期 定期試験 後期小テスト:40%、定期試験:60% 小テスト:レポートの作成能力評価 中間試験:洗顔、化粧水、乳液実習までの理解度 定期試験:スキンケア製品の重要な製剤である乳液、クリーム製剤の製法、評価法、原料の理解度 評価は学則規定に準ずる		
【特記事項】							

科目名 (英)	メイクアップ製品開発実習 (Cosmetics Product Development Practical)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	伊藤・横山・田辺・植松	
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	120時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 1~4限目	
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】								
この講座ではメイクアップ製品を実際に作製、評価することを通じて、製品の成分構成や製造方法、使用する原料の性質や特徴を習得する。 その日の実施事項と結果はきちんと整理し、しっかり考察しておきましょう。そして出会った現象、事象に対して常に「なぜ?どうして?」という疑問を持ち考える姿勢を持つことが大切です。なお、実作業はグループ単位で行ないますが、火傷や怪我などしないよう事前の注意事項は厳守するよう心がけてください。								
【到達目標】								
各種ベースメイク、ポイントメイク製品に使用される主要原料とその役割、処方構成、製造方法の基本技術を実際のモノ作りを通して習得する。 さらには狙いの品質や機能を持った製品の処方設計、製造にチャレンジする。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
◎「新化粧品学」第2版 光井武夫編 南山堂 ◎実習書 ◎その他プリント				実習後は原料の使用目的や製品の製造方法、評価の仕方などの理解を深めるとともに自ら作ってみたいものを考えておき自由テーマ研究に繋げていきましょう				
回	授業概要	回	授業概要					
1~4	<p>【授業単元】リップクリームの製品化実験</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】使用原料の性質と役割を知り、製造方法を習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイクアップ製品開発実習における留意点の理解 ・使用する原料の種類と製品における役割を知る ・リップクリームの構成原料と製造方法の理解 	33~36	<p>【授業単元】下地クリーム、コンシーラーの製品化実験</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】下地クリーム、コンシーラーの製造技術習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粉体処理と乳化タイプの下地クリーム、コントロールカラーの製品化 ・スティックコンシーラーの製造実験と融点測定 					
5~8	<p>【授業単元】リップスティックの処方作成・製品化実験</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】リップスティックの処方、製造方法を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口紅の原料特性・処方・製造技術 ・スティックタイプ口紅の金型成型技術 ・官能評価方法 	37~40	<p>【授業単元】リキッドファンデーション、BBクリームの製品化実験</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】O/W型及びW/O型リキッドファンデーションの製造技術習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・O/W型リキッドファンデーションの処方構成と製品化技術 ・シリコーン油を用いたW/O型リキッドファンデーションの作製 ・BBクリームの機能、目的と処方構成 ・BBクリームの製品化 					
9~12	<p>【授業単元】リップスティック/リップグロスの処方作成・製品化実験</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】口紅の調色、製造技術、評価方法等の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リップグロスの処方、製造技術、評価方法等の習得 ・リップグロスの機能と原料の理解 ・3本ローラーによる調色 	41~44	<p>【授業単元】シリコーン誘導体と化粧品への応用及びレオロジー研究</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】シリコーンを応用した化粧品の技術習得とレオロジーの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レオロジー測定と流動特性の理解 ・シリコーン誘導体を応用したW/O型クリームの作成 ・シリコーン誘導体を応用したサンスクリーン剤の作成 					
13~16	<p>【授業単元】アイシャドウの製品化実験</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】アイシャドウの原料特性と製造技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイシャドウの処方構成の理解と製造方法 ・プレス成型技術の習得 ・粉体物性(吸油量)測定 	45~48	<p>【授業単元】マスカラの処方作成・製品化実験</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】マスカラ 処方の理解、製造方法、評価法の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エマルジョンポリマーの役割と機能の理解 ・マスカラの処方作成／製品化技術 ・形態と容器、小道具の特徴 ・充填方法、品質評価方法 					
17~20	<p>【授業単元】チークカラー(頬紅)、ハイライトの製品化実験</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】チークカラー、ハイライトの製造技術、評価方法の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレスドライプチークカラー、ハイライト製造 ・物性(硬度)評価 ・パッケインジェクション(スラリー充填)成型と流動特性の把握 ・多色プレス成型技術習得 	49~52	<p>【授業単元】アイライナー、パウダーアイブロウの処方作成・製品化実験</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】アイライナー、パウダーアイブロウの処方、製造方法、評価法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイライナー、パウダーアイブロウの作製と製品化技術習得 ・形態と容器、小道具の特徴 ・品質評価方法 					
21~24	<p>【授業単元】コンパクトパウダー/パウダーファンデーションの製品化実験</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】固体白粉/固体ファンデーションの製造技術習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シリコーン処理粉体の作製 ・粉体の表面処理技術の習得 ・コンパクトパウダー/パウダーファンデーションの製品化 ・プレス成型技術の習得 	53~56	<p>【授業単元】ネイルエナメル、除光液の製品化実験。</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】ネイルエナメル、除光液の製造技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイルエナメル、除光液の原料構成、注意事項と調整方法 ・カラーマッチング ・塗膜作成方法と物性(硬度)評価 ・定期試験 					
25~28	<p>【授業単元】2ウェイパウダーファンデーションの製品化実験</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】2ウェイパウダーファンデーションの製造技術習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処理粉体の応用技術 ・2ウェイファンデーションの製品化 ・機器による物性測定と品質(色差計、レオメータ、硬度計) ・中間試験 	57~60	<p>【授業単元】企画・商品開発立案による自由テーマ研究</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】各班の開発目標の明確化と目標品質確保にチャレンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班設定テーマについて製品形態で具現化し、結果発表を実施 					
29~32	<p>【授業単元】油性ゲルの作成評価実験、スティック状製品の融点測定</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】油性ゲルの特性把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種油剤とゲル化剤による油性ゲルの調製と評価 ・口紅の融点測定 ・固形燃料の原理と作成方法 		<p>【評価方法について】</p> <p>中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験(持ち込み無し)</p> <p>定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験(持ち込み無し)</p>					
【特記事項】								
毎回、各グループ毎に、実験記録ノートを提出する事。 必要に応じて小テストを実施。								

科目名 (英)	ヘアケア製品開発実習 (Hair Care Product Development Practical)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	高林久美子
							後期・集中
学科・コース	化粧品総合学科	授業形態	実習	総時間(単位)	120時間(4)	開講区分 曜日・時間	月曜日・その他1~4限
【授業の学習内容と心構え】							
化粧品業界において研究開発経験を有し、大学・専門学校において化学・化粧品分野の教員経験が10年以上ある教員が、ヘアケア製品の製造方法を実習で習得し、また、製造管理や品質管理の方法を学ぶ授業を行う。特に、技術の習得は実際に自分の手を動かして初めて可能となるので、遅刻・欠席をせず、積極的に実習に参加して欲しい。また、最後の数回は学んだことを生かして自分たちでテーマを決めて製品を製造し、みんなの前で発表する。							
【到達目標】							
ヘアケア製品を製造するために必要な知識と技術を習得する。							
学んだことを生かして自分なりのテーマを立て、処方展開をし、製品を作り上げることができる。							
学んだことを生かして自分なりのテーマを立て、処方展開をし、製品を作り上げた過程を発表できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
配布実習書、新化粧品学(南山堂)				毎回の実習のレポートを作成し、次週提出する。			
授業概要	回	授業概要					
【授業単元】シャンプー① 【授業形態】実習 【到達目標】 1-4 毛髪の構造を説明できる シャンプーの基本構成がわかる シャンプーの使用感の評価ができる	33-36	【授業単元】セットローション・パーマ 【授業形態】実習 【到達目標】 セットローションを製造できる カールリテンションテストを実施できる パーマの原理がわかり、製造できる					
【授業単元】シャンプー② 【授業形態】実習 【到達目標】 5-8 シャンプーの基本処方が組み立てられる 種々のアニオン性界面活性剤の感触の違いを実感できる アミノ酸系洗浄剤の増粘ができる	37-40	【授業単元】染毛剤 【授業形態】実習 【到達目標】 一時染毛剤、半永久染毛剤、永久染毛剤の染色部位を説明できる 一時染毛剤、半永久染毛剤、永久染毛剤の原理が説明できる ヘアマニキュア、ヘアカラーを製造できる					
【授業単元】シャンプー③ 【授業形態】実習 【到達目標】 9-12 シャンプーにおけるシリコーンの働きを実感できる 処方展開の基本的なやり方を実践できる シャンプーの処方アレンジができる	41-44	【授業単元】定期試験 自由テーマ準備 【授業形態】実習 【到達目標】 1-10回の振り返りができる 自分たちで適切なテーマを設定できる					
【授業単元】リンス・コンディショナー① 【授業形態】実習 【到達目標】 13-16 カチオン性界面活性剤の働きがわかる 種々のコンディショニング剤の違いがわかる リンスの基本処方が組み立てられる	45-48	【授業単元】自由テーマ① 【授業形態】実習 【到達目標】 自分たちで適切なテーマを設定できる テーマに沿って処方アレンジできる 次回やることを設定できる					
【授業単元】リンス・コンディショナー② 【授業形態】実習 【到達目標】 17-20 リンスにおけるシリコーンの働きを実感できる 処方展開の基本的なやり方を実践できる リンスの処方アレンジができる	49-52	【授業単元】自由テーマ② 【授業形態】実習 【到達目標】 テーマに沿って処方アレンジできる 次回やることを設定できる 行った実験をまとめられる					
【授業単元】アウトバストリートメント 【授業形態】実習 【到達目標】 21-24 毛髪の損傷原因が説明できる クリームタイプのアウトバストリートメントが製造できる 水系・油系のミストを製造できる	53-56	【授業単元】自由テーマ③ 【授業形態】実習 【到達目標】 テーマに沿って処方アレンジできる 行った実験をまとめられる 処方設定から処方展開、結果の一連の作業をまとめられる					
【授業単元】ヘアワックス・ポマード 【授業形態】実習 【到達目標】 25-28 主な固形油、液体油の感触を知る レオメーターで硬度を測定できる ヘアワックス・ポマードを製造できる	57-60	【授業単元】発表会 【授業形態】実習 【到達目標】 自分たちの成果を発表できる 他班の発表に対して適切な質問ができる					
【授業単元】ヘアリキッド・ヘアジェル 【授業形態】実習 【到達目標】 29-32 ヘアジェルを製造できる ヘアリキッドを製造できる		【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法:1~10回の実習に対する提出レポートで評価(個人)30点 及び自由テーマの報告書(班)10点 定期試験(60点満点) 実施方法:定期試験(50点)、発表会での発表と質疑応答(10点)					
【特記事項】							

科目名 (英)	メイクアップ演習 (Make up)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	浅野 景子	
		授業形態	演習	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 3~4時限	
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】								
化粧品カウンターの責任者として接客接遇と部下育成の経験後、美容インストラクターとして専門教育を行っている教員が授業を担当する。化粧品開発のスペシャリストを目指すために、メイクアップ前のスキンタイプ別スキンケア方法、メイクアップのステップ、メイクアップアイテムの使用目的、アイテム別の使い方と応用、補正メイクアップを学ぶ。メイクアップ化粧品の使用感、発色、使い心地を確かめながら実習しメイクアップ技術を学んでいく。日常から授業の内容の知識を参考に、市場で販売されている化粧品の特徴や人気のある化粧品の魅力を参考に化粧品の開発に役立ててほしい。								
【到達目標】								
メイクアップを美しく仕上げるためのスキンタイプ別スキンケアができるようになる。 メイクアップ化粧品のアイテム別使用方法を説明しながら使うことができるようになる。 アイシャドウやチークのグラデーションが仕上げられるようになる。 補正メイクアップはゴールデンプロポーションを基準にしたメイクアップ方法を説明できるようになる。								
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント				【授業外における学習】 市場で販売されているメイクアップ化粧品の情報を化粧品販売店、化粧品カウンター、雑誌、インターネットなどから多く収集することが望ましい。				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】メイクアップ前のスキンケア 【授業形態】講義 【到達目標】 スキンタイプを見極めることができる スキンタイプ別のスキンケアを説明できる	9	【授業単元】補正メイクアップ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ゴールデンプロポーションを基準にした補正メイクアップについて説明できる					
2	【授業単元】メイクアップ前のスキンケア 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 メイクアップを美しく仕上げるためのマッサージができる ファンデーションを美しく仕上げるスキンケアを説明できる	10	【授業単元】リップメイクアップ 【授業形態】講義 【到達目標】 リップメイクアップ化粧品の種類と使い方を説明できる 唇の形を美しく仕上げるリップメイクアップを説明できる					
3	【授業単元】ベースメイクアップ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 肌の赤み、シミ、ニキビ痕など部分的にカバーできる ベースメイクアップを美しく仕上げることができる	11	【授業単元】リップメイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 リップメイクアップアイテムを使いこなすことができる 唇の形を美しく仕上げたリップメイクアップができる					
4	【授業単元】ゴールデンプロポーションと眉プロポーション 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 理想的なメイクアップバランスを説明できる 理想的な眉プロポーションを説明できる	12	【授業単元】チーク(頬紅) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 チークをつける位置を説明できる 形状別のつけ方を説明できる メイクバランスを整える効果的な使い方ができる					
5	【授業単元】アイプロウ(眉の描き方) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 理想的な眉の形を描くことができる バランスのよい眉を描くことができる	13	【授業単元】ポイントメイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 目の形に合わせたアイメイクアップができる アイメイクアップとコーディネートしたリップメイクができる メイクアップバランスをよくするチークの使い方ができる					
6	【授業単元】アイメイクアップ 【授業形態】講義 【到達目標】 アイシャドウのつけ方と効果を説明できる アイライナーを描くことができる マスカラを効果的に塗ることができる	14	【授業単元】メイクアップ前のスキンケアとフルメイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 スキンタイプ別のスキンケアができる 美しい肌を演出できるベースメイクアップを仕上げられる アイメイクアップ、リップ&チークメイクアップができる					
7	【授業単元】アイメイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 アイシャドウでグラデーションに仕上げることができる アイライナーで目元を強調したメイクアップができる マスカラを使用してまつ毛を強調したアイメイクができる	15	【授業単元】定期試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 メイクアップ前肌タイプ別スキンケア、ベースメイクアップ、アイプロウ、アイメイクアップ、リップメイクアップ、チーク、補正メイクの基礎知識と技術が定着できている					
8	【授業単元】中間試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 メイクアップ前のスキンケア、ベースメイクアップ、アイプロウ、アイメイクアップ、ゴールデンプロポーションの知識が定着している	【評価方法について】 評価は、筆記試験を行う。授業内で修得した専門的な知識の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						
【特記事項】 演習は、各自いつも使用している化粧品を持参して積極的に実習を行いメイクアップ技術を習得すること。								

科目名 (英)	有機溶剤作業主任者 Organic Solvent Operations Chief Examination Preparation	必修選択	選択	年次	1年	担当教員	労働安全衛生管理協会
学科・専攻	化粧品総合学科	授業形態	演習	総時間(単位)	15時間 (1)	開講区分	後期 集中
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
就職先等で必要な有機溶剤の取り扱いを安全に行うための知識、関係法令について学ぶ。							
【到達目標】 国家資格である有機溶剤作業主任者の資格取得を目指す。							
【使用教科書・教材・参考書】 協会指定の教科書				【授業外における学習】			
回 授業概要				回 授業概要			
1	【授業単元】有機溶剤による健康被害及びその予防措置に関する知識 【授業形態】講義 【到達目標】 有機溶剤による健康被害及びその予防措置に関する知識について理解する	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
2	【授業単元】有機溶剤による健康被害及びその予防措置に関する知識 【授業形態】講義 【到達目標】 有機溶剤による健康被害及びその予防措置に関する知識について理解する	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
3	【授業単元】作業環境の改善方法に関する知識 【授業形態】講義 【到達目標】 作業環境の改善方法に関する知識について理解する	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
4	【授業単元】作業環境の改善方法に関する知識 【授業形態】講義 【到達目標】 作業環境の改善方法に関する知識について理解する	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
5	【授業単元】保護具に関する知識 【授業形態】講義 【到達目標】 保護具に関する知識について理解する	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
6	【授業単元】保護具に関する知識、関係法令について 【授業形態】講義 【到達目標】 保護具に関する知識について理解する 関係法令について理解する	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
7	【授業単元】関係法令について 【授業形態】講義 【到達目標】 関係法令について理解する	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
8	【授業単元】定期試験・解答解説 【授業形態】演習 【到達目標】 有機溶剤作業主任者の資格を取得する	【評価方法について】 出欠率による評価(S=合格、U=不合格)					
【特記事項】							

